

## Hitz-B69 型 ヒアリングコメント管理票

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
1	2022/08/23	概要	GK04-SC-V01 Rev.0, P17	緩衝体は「輸送用緩衝体」に見直すこと。	済	2022/09/15	「輸送用緩衝体」に訂正する。 第 18 回審査会合資料に反映。
2	2022/08/23	概要	申請書, P10	貯蔵用緩衝体は、発電用原子炉施設の設置（変更）許可申請時に別途確認しなければならない事項として、金属キャスク構造規格に規定される供用状態 D に対して必要な緩衝性能を有することを条件としているとあるが、具体的にはどのような緩衝性能のものを想定しているか。	済	2022/10/11	貯蔵用緩衝体は、地震時や施設での取扱における衝突を想定した設計事象に対して、特定兼用キャスクの安全機能を担保する部材が金属キャスク構造規格に規定される供用状態 D における許容基準を満足するために、必要な緩衝性能を有するものとする。 なお、特別の試験条件は、貯蔵時の設計事象としては想定しない。
3	2022/08/23	概要	GK04-SC-V01 Rev.0, P8~P11	収納条件の各配置の考え方を示すこと。（補足説明資料でよい。）	済	2022/10/11 2023/6/16	補足説明資料 16-1 の別紙 4 で配置の考え方について説明する。追加のコメント 3-1 及び 3-2 については別途、下記（No.3-1 及び 3-2）のとおり回答する。
3-1	2022/10/11	概要 (除熱)	GK04-SC-Z01 Rev.0, 別紙 4	別紙 4 の使用済燃料収納配置の考え方について、除熱評価では各条件での評価がわかるようにすること。また、横置き配置となるため、縦置きとの違いによる評価について説明すること。	済	2022/11/16	補足説明資料 16-4 除熱機能に関する説明資料で説明する。 各条件での評価について、4 つの配置条件それぞれで除熱解析を実施し、使用済燃料の評価については、各結果を記載している。構成部材については、解析の結果、構成部材温度が最も高くなる配置(4)の結果を示している。なお、配置(4)が最も温度が高くなることは、各解析結果の温度コンター図で確認できる。

(注)

コメント：青書き

(2024/1/18 ヒアリングまででフォロー済みのものは黒とした)

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							横置き配置の評価としては、別紙 1-2 表に示すように、水平円筒部表面における自然対流熱伝達率の周方向分布を考慮した熱伝達率の知恵現係数 0.87 を考慮している。 また、燃料部の評価においては、実際はコンパートメント下面で使用済燃料とバスケットの接触による熱伝導が行われるが、その影響を排除し、燃料集合体の温度を高め設定するために、空間の中央に配置する条件としている。 これらの説明は、P別紙 1-9 の 3.除熱解析の保守性に示している。
3-2	2022/10/11	概要 (除熱)	GK04-SC-Z01 Rev.0, 別紙	除熱に関する説明と理解しているが、除熱に関する記載ではなく、遮蔽上の説明に読める箇所があり、別紙 4 の図 別 4-1～図 別 4-4 と説明内容があっていない箇所があるので、整合性をとるよう、別紙 4 の見直しを行うこと。	済	2023/6/16	配置(1)～配置(3)においては除熱による制限であるが、配置(4)においては、除熱評価による制限だけでなく、遮蔽評価による制限により収納配置に制限を設けているため別紙 4 の記載を見直した。
4	2022/08/23	概要	GK04-SC-V01 Rev.0, P36	除熱及び閉じ込めの周囲温度条件において、“Hitz-B69 型を含めた”という表現について、適切に見直すこと。	済	2022/09/15	“Hitz-B69 型を含めた特定兼用キャスクの周囲温度”を“Hitz-B69 型の周囲温度”に訂正する。第 18 回審査会合資料に反映。
5	2022/08/23	概要	GK04-SC-V01 Rev.0, P22	各解析結果がどの配置の収納条件かわかるように注記を入れること。	済	2022/09/15	4.安全設計に関する評価概要に注記で各解析の条件を示す。第 18 回審査会合資料に反映。
6	2022/08/23	概要	GK04-SC-V01 Rev.0, P16	Hitz-B52 型と類似の構造であることを注記すること。 P24 の審査での他のキャスクとの比較にならない、Hitz-B52 型の情報を参考に追加すること。 Hitz-B52 型と異なる点の説明をすること。	済	2022/09/15	第 18 回審査会合資料に参考として追加した。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
7	2022/08/23	概要	GK04-SC-V01 Rev.0, P27, P28	設置許可基準規則への適合に対し、津波や外部からの衝撃については設計条件がわかるよう条件のスケッチを追加すること。	済	2022/09/15	津波及び外部からの衝撃（竜巻）について、各適合状況の後に条件のスケッチを追加する。第 18 回審査会合資料に反映。
8	2022/08/23	概要	GK04-SC-V01 Rev.0, P6	兼用キャスクの設置方法に応じた評価の例では縦置きスケッチであり、今回の評価条件がわかりにくいのでスケッチを追加すること。  また、貯蔵架台が固定されないが、厳しい条件として貯蔵架台が固定された状態で、トラニオンで支持した状態での評価をしているとの説明について、記載をすること。	済	2022/09/15	スケッチを追加する。  トラニオンで支持した状態での解析であることを追記する。  第 18 回審査会合資料に反映。
9	2022/08/23	概要	GK04-SC-V01 Rev.0, P7	バスケット材料について、表やスケッチでもう少しどの部材がどの材質かをわかるようにしてほしい。	済	2022/09/15	2.特定機器の仕様・構造のバスケット図に材質を追記する。第 18 回審査会合資料に反映。
10	2022/08/23	概要	GK04-SC-V01 Rev.0, P16	バスケットに使用した SG295 については、どこで使用されているのか、わかるようにしてほしい。	済	2022/09/15	上記と合わせて、コンパートメントの材質 SG295 を追記する。第 18 回審査会合資料に反映。
11	2022/08/23	概要	GK04-SC-V01 Rev.0, P16	概要の説明の場でなくてよいので、バスケットの詳細の説明をすること。  (クランプの固定方法、コンパートメントの製造方法など)	済	2022/10/11	補足説明資料 16-1 の別紙 2 でバスケットの概要を説明する。
12	2022/08/26	概要	GK04-SC-V01 Rev.0, P5	キャスクの構造図は一部非公開部分があるが、この図は、非公開部分が必要な詳細な構造は必要としていなく、それぞれの構造部材がだいたいどの部分になるのかが把握できればよいので、公開できるキャスクの図に差し替えること。	済	2022/09/15	公開できる図に差し替える。  第 18 回審査会合資料に反映。
13	2022/10/11	概要	GK04-SC-Z01 Rev.0, P12	本体のシール部には、シール面の防食を目的としてステンレス鋼の肉盛り溶接を行っているが、先行他社ではこのような記載は見当たらないので、この肉盛り溶接について説	済	2023/6/16	本体及び二次蓋の母材は炭素鋼であり、燃料装時にキャスクのシール面が冠水することで腐食環境にさらされることから、その防食を目的としてステンレ

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
				明を追加すること。			ス鋼の肉盛溶接を行っている。 Hitz-B52 型の型式証明審査において、蓋部及びシール部の構成部材の材料についてオーバーレイやクラッド等の記載をするよう求められ、Hitz-B52 の仕様に記載した (2018/10/19 コメント)。Hitz-B69 型は Hitz-B52 型と同様の仕様であることから、この肉盛り溶接について、記載を行った。本文については、Hitz-B52 型の型式証明申請書の記載に合わせることにし、このままとする。
14	2022/10/11	概要 (材料)	GK04-SC-Z01 Rev.0, 別紙 3	別紙 3 の SG295 の説明で引用されている新規材料採用ガイドラインは、新規材料を JSME 規格に登録するための手続きであり、今回は、この JSME への登録手続きを取らず、メーカーから規制側に、特認のような形で材料の使用を認めてもらいたいという方針であると理解した。 そのため、規制庁で審査するには、新規材料採用ガイドラインによる JSME への手続きと同程度の資料を規制庁に提出する必要があると考える。 したがって、資料についてはガイドラインを適切に引用しながら丁寧に説明をすること。また、JSME への手続きと同程度の資料を準備すること。	済	2023/6/16 2023/6/30	補足説明資料 16-1 の別紙 3 の記載を新規材料採用ガイドラインへの対応がわかるよう見直し、物性値の取得の詳細については、JSME 新規材料採用ガイドラインを考慮して作成した資料を別添 2 として追加した。 追加質問は No.104 及び No.105 に記載。
15	2022/10/11	概要 (材料)	GK04-SC-Z01 Rev.0, P24	一次蓋の材質がステンレス鋼であるが、一方で、本体胴が炭素鋼であり、材質が異なるため、熱膨張の影響の有無について説明すること。		2023/6/16 2023/7/19 2024/01/18 2024/2/8	熱膨張の考慮として、本体胴 (炭素鋼) と一次蓋 (ステンレス鋼) の取り合いには、設計温度での熱伸びを考慮しても、部材間に隙間が確保できるよう設計しており、資料 GK04-SC-X02 Rev.1 で確認している。 なお、構造解析においては、温度依存性を考慮するた

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							め、除熱解析で得られた各部位の温度に対応する物性値（線膨張係数）を設定している。 以上より、Hitz-B69型においては、一次蓋（ステンレス鋼）と本体胴（炭素鋼）の材質の違いによる熱膨張の影響はない。
16	2022/10/11	概要	GK04-SC-Z01 Rev.0, P6	閉じ込め機能を監視するための設計方針について、「Hitz-B69型の万一の閉じ込め機能の異常に対する修復性の考慮がなされていることについては、設置（変更）許可申請時に別途確認されるものとする。」についてもう少し説明を追加すること。キャスクとしては修復性があるが、施設として対応できるかどうかを、設置（変更）許可申請時に確認するという意味であれば、キャスクと施設で区別できるように説明を追加すること。  （例えば、P38の蓋間圧力の監視では、キャスクへの適合性と施設での確認事項に分かれており、わかりやすいので、参考にすること。）	済	2023/6/16	キャスク側の、万一のキャスクの閉じ込め機能の異常に対して、二次蓋の閉じ込め機能の異常が認められた場合には、使用済燃料集合体を内封する空間が負圧に維持されていること及び一次蓋が健全であることを確認のうえ、二次蓋の金属ガスケットを交換し、閉じ込め機能を修復できる設計に対し、施設側での対応をわかるように「二次蓋の金属ガスケットの交換や、三次蓋の取り付けに対して、施設側で」という記載を追記する。  Hitz-B69型の万一の閉じ込め機能の異常に対する二次蓋の金属ガスケットの交換や、三次蓋の取り付けに対して、施設側で修復性の考慮がなされていることについては、設置（変更）許可申請時に別途確認されるものとする。
17	2022/11/16	臨界	GK04-SC-V02B, P.9	臨界防止設計の方針に記載されている、「基礎等に固定しない設置方法のため滑動等の可能性があるが、キャスクが無限に配列した体系（完全反射）を評価することで、キャスクの配置の変化を考慮する場合を包絡する」について、具体的に説明すること。	済	2022/11/16 (口頭回答)	GK04-SC-E01 r.0 P.7に同様の説明を記載している。 Hitz-B69型の設置方法は基礎等に固定しない設置方法であるため、地震等、外力が作用する場合において、キャスクを配置した位置から移動してしまう可能性がある。しかし、臨界解析においては、キャスクに外接する領域でモデル化し、そこで完全反射とし

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							<p>ていることから、キャスクの配置が変化することによる中性子干渉によって、評価結果として示している実効増倍率が上がることはないということである。</p> <p>説明としては GK04-SC-V02B P.14 でモデルの考え方が説明されるので、そこを参照するよう記載する。</p>
						2022/12/5 (資料修正)	<p>説明資料及び補足説明資料を修正した。 (GK04-SC-W02 に反映、GK04-SC-E01 r1 P.7)</p>
18	2022/11/16	臨界	GK04-SC-V02B, P.14	板厚等の考え方について、補足説明資料で説明されているか。	済	2022/11/16 (口頭回答)	寸法公差の考え方については、GK04-SC-E01 r.0 P.7 に寸法公差を考慮しているという説明をし、具体的には 3.項の P.16 及び別紙 1 に記載している。
19	2022/11/16	臨界	GK04-SC-V02B, P.14 GK04-SC-E01 r0, P.16	<p>GK04-SC-V02B P.14 では、寸法公差の部分が最小・最大の記載だけで、どういう考え方で保守的な設定とされているのか不明である。</p> <p>GK04-SC-E01 r0 P.16 で、バスケット格子板厚と中性子吸収材板厚の条件が乾燥状態と冠水状態で異なっているが、なぜ乾燥と冠水で保守的になる条件が異なるのか、水と板厚の関係などを踏まえて説明すること。</p>	済	2022/11/16 (口頭回答)	<p>乾燥状態と冠水状態の違いは、バスケットの空隙の水の有無である。水の有無で大きく影響を受けるのは、中性子吸収材が中性子を吸収するかどうかである。</p> <p>乾燥状態では中性子が減速されず、中性子吸収材があまり機能しない状態になる。格子板厚や中性子吸収材板厚を最小とすると、燃料領域以外に吸収される中性子が少なくなり、実効増倍率を上げる方向に作用する。</p> <p>冠水状態では、GK04-SC-E01 r.0 P.18 にバスケット格子部分の断面を示しているが、Hitz-B69 型では燃料と中性子吸収材の間に炭素鋼のコンパートメント板（バスケット格子板）が存在する構造であるため、板厚が大きい方が反射等によって、中性子吸収材が</p>

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							効きにくくなり、実効増倍率を上げる方向に作用していると考えられる。
						2022/12/5 (資料修正)	説明資料及び補足説明資料を修正した。 (GK04-SC-W02 に反映、GK04-SC-E01 別紙 1)
20	2022/11/16	臨界	GK04-SC-E01 r0, P.16	実効増倍率が最大となる条件は、パラメータ同士で関係する部分はマトリックス等で網羅的に説明して欲しい。 幾何学的な寸法条件としては、バスケット格子の間隔、格子板厚、中性子吸収材の板厚及び集合体とバスケット格子間の厚さ等、その他の条件としては、水の有無、高速・熱中性子、ほう素の量等、それらの組み合わせがどう影響するか、という説明をすること。	済	2022/12/5 (資料修正)	補足説明資料に説明を追記した。 (GK04-SC-E01 r1 別紙 1)
21	2022/11/16	臨界	GK04-SC-E01 r0, P.16	実効増倍率とパラメータの関係をグラフ等で定量的に見えるようにし、冠水状態と乾燥状態でそれぞれ傾向を示して説明すること。 燃料体が近接すれば相互干渉で実効増倍率が上がる、水があれば減速されて核分裂反応が起こりやすくなる、という一般的な事実に対し、過去の事例等から傾向が異なる部分に関して、定量的な結果を踏まえて考察して定性的な説明をし、今回の体系では設定した条件が妥当であるということが分かるように説明すること。	済	2022/11/16 (口頭回答)	説明を検討する。 なお、定量的な説明として、GK04-SC-E01 r.0 別紙 1 に、それぞれの寸法について最小・最大を振ること で、パラメータ毎にどの程度影響するかを記載している。中性子吸収材の板厚に関しては、乾燥・冠水状態に関係なく、実効増倍率に対する影響は非常に小さいことを確認している。また、バスケット格子の板厚に関しては、冠水状態においては実効増倍率を上げる方向と下げる方向の影響があるため、その兼ね合いによって、単体の影響としては非常に小さいことを確認している。
						2022/12/5 (資料修正)	補足説明資料に説明を追記した。 (GK04-SC-E01 r1 別紙 1)

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
22	2022/11/16	臨界	GK04-SC-V02B, P.14	GK04-SC-E01 r0 P.16 の修正に関連して、GK04-SC-V02B P.14 の説明を修正すること。	済	2022/12/5 (資料修正)	説明資料には補足説明資料に詳細記載することを明記し、補足説明資料を修正した。  (GK04-SC-W02 に反映、GK04-SC-E01 r1 別紙 1)
23	2022/11/16	臨界	GK04-SC-E01 r0, P.12	臨界解析条件として、収納される燃料が約 3.7wt%に対して 3.66wt%としているが、この設定根拠を説明すること。	済	2022/11/16 (口頭回答)	3.66wt%は Hitz-B69 型の設計条件である。 約 3.7wt%は申請書に記載の燃料型式毎の代表的な濃縮度として記載しているものである。Hitz-B69 型の評価は 3.66wt%で行うため、収納する燃料の条件として初期濃縮度が 3.66wt%以下に制限されるべきと考えている。申請書の記載に記載する燃料仕様を濃縮度の上限を記載するよう補正する方向で検討する。
						2022/12/5 (資料修正)	説明資料及び補足説明資料を修正した。  (GK04-SC-W02 に反映、GK04-SC-E01 r1 P.10,12)
24	2022/11/16	臨界	GK04-SC-E01 r0, P.10	濃縮度について、乾燥状態と冠水状態で考え方が異なるが、その理由を説明すること。概要説明資料にも分かるように記載すること。  また、冠水状態での濃縮度の考え方も補足説明資料に記載すること。	済	2022/11/16 (口頭回答)	乾燥状態と冠水状態で燃料モデルを変えている理由は、GK04-SC-V02B P.13 に示している。GK04-SC-V02B P.13 の右の図が、横軸に燃焼度、縦軸に炉心装荷冷温状態での無限増倍率を示したものであり、収納する BWR 燃料は可燃性毒物の添加により同図の Actual Bundle Reactivity という線で描かれるような、燃焼期間を通じて無限増倍率が 1.3 を超えない反応度特性を持つものであることを評価の前提としている。  可燃性毒物の中性子吸収効果は乾燥状態では期待で

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							<p>きないため、乾燥状態では可燃性毒物は無視し、初期濃縮度を最大の 3.66wt% に設定した燃料で評価している。</p> <p>冠水状態では、実際の燃料は燃焼に伴い反応度が低下する領域にあると考えられるが、収納する燃料の燃焼度に制限を与えないため、燃焼期間を通じて燃料集合体として最も反応度が高まる状態を包絡し保守的な評価となるよう、炉心装荷冷温状態における無限増倍率 1.3 となる燃料集合体モデルを評価に用いている。</p> <p>資料に説明の記載を追加する。</p>
						2022/12/5 (資料修正)	<p>説明資料及び補足説明資料を修正した。 (GK04-SC-W02 に反映、GK04-SC-E01 r1 P.10)</p>
25	2022/11/16	臨界	GK04-SC-V02B, P.13	冠水状態の評価における、適切に考慮するという点が無限増倍率 1.3 のモデルバンドルを設定するという点を明記すること。 また、BWR 燃料の反応度特性の図について、説明を追記すること。	済	2022/12/5 (資料修正)	<p>説明資料を修正した。 (GK04-SC-W02 に反映)</p>
26	2022/11/16	臨界	GK04-SC-V02B, P.13	実際に収納を想定する燃料に対して、燃焼度に対する無限増倍率を評価して示すことは可能か。	済	2022/11/16 (口頭回答)	<p>評価するためには、燃料集合体の燃料棒毎の濃縮度等の詳細な燃料設計条件を元に、詳細な燃焼条件を与え、燃焼に伴う組成の変化を臨界解析に適用する必要があり、難しい。</p>
27	2022/11/16	臨界	GK04-SC-V02B, P.13	キャスクはプラント機器であることを踏まえ、設置変更許可申請等の整合性等も考慮して、説明を検討すること。	済	2022/12/5 (資料修正)	<p>説明資料を修正した。 (GK04-SC-W02 に反映、GK04-SC-E01 r1 P.8)</p>
28	2022/11/16	臨界	GK04-SC-E01	表 3-1 の解析条件の初期濃縮度は 3.66wt% という記載のみ	済	2022/11/16	<p>ご理解の通りです。</p>

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
			r0, P.12,13	であるが、冠水状態では異なるという理解で良いか。		(口頭回答)	乾燥状態では 3.66wt%の燃料棒のみを評価に用い、冠水状態では 4.9wt%及び 2.1wt%の燃料棒の組み合わせたものを用いる。記載は修正する。
						2022/12/5 (資料修正)	補足説明資料を修正した。 (GK04-SC-E01 r1 P.13,14)
29	2022/11/16	臨界	GK04-SC-V02B, P.12	緑色で示している部材は、どのような意図で記載しているのか。	済	2022/11/16 (口頭回答)	臨界解析モデルに対して、当該部材の材質を反映していることを示す意図で記載している。図示するように軸方向に材質が変わる構造をしているため、臨界解析モデルにそれを反映している。
30	2022/11/16	臨界	GK04-SC-V02B, P.8-10	詳細説明を行うページ番号を追記すること。	済	2022/12/5 (資料修正)	説明資料に追記した。 (GK04-SC-W02 に反映)
31	2022/11/16	臨界	GK04-SC-V02B, P.43	中性子吸収材の板厚公差について、Hitz-B52 型と異なる考え方をしているのはなぜか。 これが保守的ということが分かるように説明をすること。	済	2022/11/16 (口頭回答)	知見の追加である。 まず、中性子吸収材の中に存在するほう素の量が最少となるようにモデル化することを基本的な考え方としている。ほう素の量を質量割合等で規定する場合には板厚を最小とすることでほう素の量が最少となるため、そのような考え方に準じて Hitz-B52 型の評価では板厚を最小としていた。しかし、ほう素の量は面密度で規定しているため、板厚が厚いもので面密度規定を満足する部材が存在するという考えで、Hitz-B69 型の評価では中性子吸収材の板厚を新たにパラメータとして考慮している。
						2022/12/5 (資料修正)	補足説明資料に説明を追記した。 (GK04-SC-E01 r1 別紙 1)
32	2022/11/16	除熱	GK04-SC-	設置許可基準規則の要求事項の説明については、臨界(P8,	済	2022/12/5	説明資料に追記した。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
			V02B, P.16, P.17	9, 10)と合わせる。審査ガイドの確認内容を入れること。		(資料修正)	(GK04-SC-W02, P.15, P.16 に反映)
33	2022/11/16	除熱	GK04-SC-V02B, P.27	燃料集合体最高温度の算出において、保守的に設定しているとのことだが、記載内容と図の関係がわかり難いため、表現を工夫すること。	済	2022/12/5 (資料修正)	説明資料の表現を見直した。 (GK04-SC-W02, P.27, P.28 に反映) 保守性に関する記載と図の対応を明確にした。
34	2022/11/16	除熱	GK04-SC-V02B, P.27	別紙 1 の別添 2 が何か、追記すること。	済	2022/12/5 (資料修正)	説明資料に、補足説明資料 16-4 の別紙 1, 別添 2 である旨追記した。 (GK04-SC-W02, P.28 に反映)
35	2022/11/16	除熱	GK04-SC-V02B, P.27	燃料集合体最高温度の保守性の説明で、「中央部に燃焼度の高い燃料の崩壊熱量を設定し、外周部にも、外周部に収納する燃料の中で、最も崩壊熱量が高くなる条件のものを設計条件とする」としているが、わかり難いため、表現を見直すこと。	済	2022/12/5 (資料修正)	2 つの事項をまとめて説明しようとしていたためわかり難い表現となっていたことから、説明資料の表現を見直した。 (GK04-SC-W02, P.28 に反映) 外周部の配置に関しては、「外周部に収納可能な燃料が複数ある場合、外周部に収納する燃料の中で、最も崩壊熱量が高くなる条件のものを設計条件とする」とし、中央部の配置に関しては、「燃料集合体最高温度を高め算出するために、中央部には燃焼度の高い燃料の崩壊熱量を設定することで、Hitz-B69 型の最大貯蔵能力として設定した最大崩壊熱量に対し、保守的な設定」とした。
36	2022/11/16	除熱	GK04-SC-V02B, P.19	配置制限の説明として、臨界の場合は 1 つのパターンだが、除熱では各配置での検討としている。この違いについて説明すること。 初期濃縮度についても、臨界と異なり、除熱解析で最小値に設定していることについて説明すること。	済	2022/11/16 (口頭説明)	臨界解析では、各配置の条件を包絡する、かなり保守的な設定としており、一方で除熱解析では現実的により実態に合わせた解析をしているためである。 また、初期濃縮度については、臨界解析と異なり、ORIGEN2 コードで線源強度を計算する場合、出力

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							を固定するため濃縮度が低いほうが発熱量、線源強度に対して保守的になることから、最小値としている。
37	2022/11/16	除熱	GK04-SC-V02B, P.46	Hitz-B52 との ORIGEN2 コードのバージョンの違いに対してほとんど影響はないとのことだが、検証結果を示すこと。	済	2022/12/5 (資料修正)	補足説明資料に説明を追記した。 (GK04-SC-B01 r1 別紙 5)
38	2022/11/16	除熱	GK04-SC-V02B, P.19	最大崩壊熱量と設計崩壊熱量はどのような観点で決まっているのか説明すること。	済	2022/11/16 (口頭説明)	収納条件を考慮して決まるものであり、補足説明資料 16-4 の P.13 に説明を記載している。
						2022/12/5 (資料修正)	説明資料に説明を追記した。 (GK04-SC-W02, P.18 に追記) 最大崩壊熱量は、使用済燃料集合体の燃焼度分布を考慮しない場合の崩壊熱量を使用済燃料の収納制限としており、一方で、設計崩壊熱量は、収納対象とする使用済燃料集合体の燃焼度を包絡する燃焼度分布を考慮することで、最大崩壊熱量を上回る旨、追記した。
39	2022/11/16	除熱	GK04-SC-V02B, P.21, P.23	配置(3)の最大崩壊熱量 (10.5kW or 12.4kW) 及び設計崩壊熱量 (13.3kW or 15.7kW) の記載が異なるので、記載を統一すること。	済	2022/12/5 (資料修正)	最大崩壊熱量 (12.4kW) 及び設計崩壊熱量 (15.7kW) が正しいため、説明資料を訂正した。 (GK04-SC-W02, P.21 を訂正)
40	2022/11/16	除熱	GK04-SC-V02B, P.25, P.27	図に記載されている「伝熱ブロック」と「伝熱部材」は同じものだが名称が異なるので、統一すること。	済	2022/12/5 (資料修正)	「伝熱ブロック」に統一し、説明資料を修正した。 (GK04-SC-W02, P.24, P.25, P.27 に反映)
41	2022/11/16	除熱	GK04-SC-	配置(4)中央部の高燃焼度 8×8 燃料の設計基準値が 30℃	済	2022/12/5	説明資料を修正した。(30℃→300℃)

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
			V02B, P.29	となっている。		(資料修正)	(GK04-SC-W02, P.30 に反映)
42	2022/11/16	除熱	GK04-SC- V02B, P.35	配置(3)の外周部に8×8燃料を収納することはあるのか。	済	2022/12/5 (資料修正)	配置(39で8×8燃料を収納することは無いため、説明資料を修正した。 (GK04-SC-W02, P.42 に反映)
43	2022/11/16	除熱	GK04-SC- V02B, P.38	表に記載のスペーサーが図中に見当たらない。	済	2022/12/5 (資料修正)	説明資料の図にスペーサー部拡大図を追記した。 (GK04-SC-W02, P.45 に反映)
44	2023/1/20	遮蔽	GK04-SC- V02C, P.8	線源強度評価条件について、引用するページ番号を記載すること。	済	2023/2/28 (資料修正)	説明資料を修正した。 (GK04-SC-W02A, P.9 に反映)
45	2023/1/20	遮蔽	GK04-SC- V02C, P.12	評価結果を先行例と比較すると、表面から1m離れた位置における線量当量率はあまり相違がないが、表面線量当量率が低めの数値となっている。保守性の考え方に違いがあるのか。評価の妥当性について説明すること。	済	2023/1/20 (口頭説明)	他社の詳細は不明であるが、トラニオン部は線束接続で評価している点は同じである。  Hitz-B69型と類似設計であるHitz-B52型との差異については、Hitz-B52型で表面線量当量率が最大となる位置で、Hitz-B69型は中性子遮蔽材が機能するよう工夫しており、結果として表面線量当量率が抑えられ、最大となる位置も変わったという経緯はある。  これまでの弊社のキャスクと比較する形で説明を追加する。
						2023/2/28 (資料修正)	補足説明資料16-3、別紙7に説明を追加した。 (GK04-SC-D01 Rev.1, 別紙7に追加)
46	2023/1/20	遮蔽	GK04-SC- V02C, P.9	部材名称を統一すること。 実物に対してどのようにモデル化しているのかを説明すること。	済	2023/2/28 (資料修正)	説明資料に、モデル化の説明を追加した。 (GK04-SC-W02A, P.11 に反映)
47	2023/1/20	遮蔽	GK04-SC-	「部材の一部」についてももう少し詳しい説明をすること。	済	2023/2/28	説明資料に追記した。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
			V02C, P.11			(資料修正)	部材の一部について、具体的な個所を図示した。 (GK04-SC-W02A, P.12 に反映)
48	2023/1/20	閉じ込め	GK04-SC-V02C, P.15	「漏えい孔中の流れの形態を考慮」とはどのように考慮しているのか説明すること。	済	2023/6/16	特定兼用キャスクの基準漏えい率は $10^{-6} \text{ Pa}\cdot\text{m}^3/\text{s}$ 程度 (Hitz-B69 型: $1.81 \times 10^{-6} \text{ Pa}\cdot\text{m}^3/\text{s}$ ) の微小な漏えいであることから、漏えい孔中の流れの形態としては、気体の分子運動が流れに及ぼす影響を無視できなく、連続流(粘性流)と分子流の中間的な流れとなっている。 特定兼用キャスクの閉じ込めの評価では、気体の連続流と自由分子流を考慮した流体力学の基礎式を用いている。
49	2023/1/20	長期健全性	GK04-SC-V02C, P.20	中性子遮蔽材の質量減損 1.7%について説明すること。	済	2023/1/20 (口頭説明)	中性子吸収材の質量減損については、補足説明資料 16-3 (遮蔽) の別紙 2-14 頁に記載している。
						2023/2/28 (資料修正)	説明資料に、参照箇所を追記した。 (GK04-SC-W02A, P.23 に反映)
50	2023/1/20	遮蔽	GK04-SC-V02C, P.8	( )括弧の意味を記載すること。	済	2023/2/28 (資料修正)	説明資料に追記した。 (GK04-SC-W02A, P.9 に反映)
51	2023/1/20	遮蔽	GK04-SC-V02C, P.10	グラフの縦軸を記載すること。	済	2023/2/28 (資料修正)	説明資料に縦軸の数値を追記した。 (GK04-SC-W02A, P.13 に反映)
52	2023/1/20	遮蔽	GK04-SC-V02C, P.26	縦置きと横置きの違いによる燃料集合体位置(キャスク径方向)について、評価条件に"偏りは無関係となる"とあるが、意味が分かりにくいので説明を見直すこと。	済	2023/1/20 (口頭説明)	燃料集合体のキャスク径方向位置は、二次元円筒モデルとして均質化をする際に径方向の位置の偏りを表現できないため、縦置き・横置きに係わらず同じ評価条件(モデル化)になるという意図である。 なお、燃料集合体の位置が径方向に偏ることの影響は微小と考えられる。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
						2023/2/28 (資料修正)	説明資料に、説明を修正した。 (GK04-SC-W02A, P.29 に反映)
53	2023/1/20	遮蔽	GK04-SC-V02C, P.26	「X」に、表のページ番号を記載すること。	済	2023/2/28 (資料修正)	説明資料に、説明を追記した。 (GK04-SC-W02A, P.31 に反映)
54	2023/1/20	長期健全性	GK04-SC-F01 Rev.0, P.3, P.5	腐食防食対策としてヘリウム環境であることを示しているが、圧力障壁の観点も含めて、説明すること。	済	2023/2/28 (資料修正)	説明資料に、説明を追記した。 (GK04-SC-F01, Rev.1, P.3, P.5 に反映)
55	2023/2/22	第4条地震	GK04-SC-V03 P9	確認内容に疲労評価とあるが、申請書にも補足説明資料にも記載がない。	済	2023/4/11	疲労評価は型式指定時に評価することとし、その旨を記載した。
56	2023/2/22	第4条地震	GK04-SC-V03 P10	二次蓋の評価を記載していないが、二次蓋は遮蔽体として支持出来ていることを示す必要があるのではないか。	済	2023/4/11	二次蓋を支持している二次蓋ボルトの評価を追加した。
57	2023/2/22	第4条地震	GK04-SC-V03 P11	側部レジンの慣性力はどのように作用するのか？	済	2023/4/11	蓋部や底部レジン同様、質量を胴内面と外筒内面に与えている。説明を追加した。
58	2023/2/22	第4条地震	GK04-SC-V03 P11	側部中性子遮蔽材部の圧力とは何を指すのか？	済	2023/2/22 (口頭)	レジン部の温度上昇によるボイド部の空気の膨張による圧力である。 温度は除熱の除熱解析の結果を使用している。
59	2023/2/22	第4条地震	GK04-SC-V03 P11	上部トラニオンの軸方向変位は拘束されないのか？ また、上下部トラニオンの径方向の拘束条件として90°方向のみ固定している理由は何か？	済	2023/2/22 (口頭)	貯蔵架台の構造として上部トラニオンは軸方向にスライド出来るようになっているため、水平方向には拘束されず鉛直方向の拘束のみとなる。 水平方向の荷重に対しては荷重方向を考えて、上下部トラニオンの90°方向のみ固定している。
60	2023/2/22	第4条地震	GK04-SC-V03 P11	図では鉛直上方向しか書かれていないが、鉛直下方向は考慮しているのか？ また、水平地震力と鉛直地震力を組み合わせた評価とあるが、同時に作用させているのか？	済	2023/2/22 (口頭)	別紙 1-2 図にあるように鉛直下方向の荷重を作用させた条件でも評価している。パワポの図に両方記載すると同時に作用しているように捉えられてしまうため上方向のみの記載とした。 水平地震力と鉛直地震力は同時に作用させている。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
61	2023/2/22	第4条 地震	GK04-SC-V03 P12	最下段のコンパートメント5本を評価対象としているが、横のコンパートメントも評価しているならその旨記載すること。(結果は最も厳しい5本のみでよい。)	済	2023/4/11	記載を追加した。
62	2023/2/22	第4条 地震	GK04-SC-V03 P12	コンパートメントをはり要素としているが、どのようにはり要素として評価しているかを記載する。 分布荷重として評価しているなら、はり要素ではない?評価式と図が合っているか確認すること。	済	2023/4/11	図を修正し、モデル化の詳細についても記載した。
63	2023/2/22	第4条 地震	GK04-SC-V03 P12	アルミブロックの荷重はどのように考慮しているのか?	済	2023/4/11	コンパートメント上部(0°側)は質量を考慮している。コンパートメント下部(180°側)は胴内面に載っている状態であり質量は考慮していない。 評価モデルに考慮する部材を記載した。
64	2023/2/22	第4条 地震	GK04-SC-V03 P12	実際どこに荷重が発生しているのか。	済	2023/2/22 (口頭)	コンパートメントにかかる荷重はサポートプレートを介して胴で受けることになる。従ってサポートプレートの取り付け部で荷重が発生する。
65	2023/2/22	第4条 地震	GK04-SC-V03 P15	評価対象のサポートプレートは1枚だけか?	済	2023/4/11	全てのサポートプレートの評価している。#62と合わせて図を修正した。
66	2023/2/22	第4条 地震	GK04-SC-V03 P17	評価基準値に数値だけでなく記号も入れてほしい。	済	2023/4/11	追記した。
67	2023/2/22	第4条 地震	GK04-SC-V03 P17	伝熱フィンの溶接部は接手効率を考慮しているか?評価基準値に対して計算値がだいぶ小さいので問題ないと思う。	済	2023/4/11	保守側の評価として伝熱フィンと外筒の溶接部を考慮せず、胴との溶接部のみを考慮していることを記載した。継手効率は考慮していない。
68	2023/2/22	第4条 地震	GK04-SC-V03 P18	一次蓋ボルトの締め付けによる摩擦力では、内外力比による軸力の変化を考慮しているか?先日MHIが補足説明をしているので参考にすること。	済	2023/4/11	一次蓋ボルトの内力係数(内外力比)を考慮した摩擦力に修正した。
69	2023/2/22	第4条	GK04-SC-V03	トラニオンの評価モデルと評価手法についても記載して	済	2023/4/11	追記した。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
		地震	P19	ほしい。			
70	2023/2/22	第4条 地震	GK04-SC-V03 P19	トラニオンの応力評価において、B-B断面を評価している理由は？	済	2023/2/22 (口頭)	C-C断面と断面形状(断面積)が変わるため、評価している。
71	2023/2/22	第5条 津波	GK04-SC-V03 P20	緩衝体形状を津波荷重の評価に考慮しているのか。	済	2023/2/22 (口頭)	考慮している。
72	2023/2/22	第5条 津波	GK04-SC-V03 P20	径方向からの津波荷重が図に示されているが、長手方向は評価していないのか？ 安全機能を損なわれるおそれがないことを評価することが目的であるので、適切に評価していることを示すよう、検討すること。(必要な場合、両方向の評価を載せることも検討する必要があると思われる。)	済	2023/4/11	補足説明資料5-1の別紙1-2図に示すとおり長手方向の荷重についても評価を実施している。 評価を追加した。
73	2023/2/22	第5条 津波	GK04-SC-V03 P27	外筒の評価では長手方向からの荷重に対して評価を行わないのか？	済	2023/2/22 (口頭)	長手方向からの津波ではフランジ部や下部端板には荷重はかからないと考えているため、評価は行わない。
74	2023/2/22	第5条 津波	GK04-SC-V03 P27	キャスクに加える集中荷重とは実際にどの程度の面積を持って与えられているのか？	済	2023/2/22 (口頭)	外筒は工学式によって評価しており、外筒を両端支持ばりとして評価している。漂流物衝突荷重はその中央部に点で作用させている。
75	2023/2/22	第5条 津波	GK04-SC-V03 P27	外筒にかかる集中荷重や分布荷重が本体胴に与える影響の評価を行わないのか？	済	2023/2/22 (口頭)	P26に示すように、別途本体胴の評価としてFEMで密封境界の評価を行っている。
76	2023/2/22	第5条 津波	GK04-SC-V03 P28	質量として考慮している赤色の部分の左側は何か？コンパートメントが全長にあるのではないのか？ どの部材の荷重がコンパートメントに作用しているのかわかりにくいため、積載荷重としている部材や、どこの断面積を用いて評価しているかを記載してほしい。	済	2023/4/11	左側の部分はコンパートメントではなく、上部格子枠である。上部格子枠の質量はフランジプレートを介して、コンパートメント69本に伝達されている。 #62とあわせて説明を追加した。
77	2023/2/22	第5条	GK04-SC-V03	評価結果で“－”としている個所は評価をしない理由を注	済	2023/4/11	追記した。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
		津波	P32	記に記載すること。			
78	2023/2/22	第4条 地震	GK04-SC-A01 別紙 1-11	断面積や曲げモーメントを計算するために必要な数値や式が記載されていない。	済	2023/4/11	追記した。
79	2023/2/22	第4条 地震	GK04-SC-A01 別紙 1-12	荷重として扱っている部材の内訳を記載してほしい。	済	2023/4/11	追記した。
80	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-V03 Rev.1, P10 GK04-SC-A01 Rev.1, 別紙 1-3 図	一次蓋密封シール部と一次蓋ボルトをまとめて密封境界部と表現しているとの理解でよいか？密封境界部とは胴部も入っているのか？密封境界部をすべて評価しているわけではなく一部だけの評価ならば、それが分かるように記載すべき。	済	2023/5/11	密封境界部の定義は審査ガイドに記載されているとおりである。「密封境界部」とは、閉じ込め機能を担保する一次蓋締付ボルト及び密封シール部をいう。） ・P10 に注記を追加した。
81	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-A01 Rev.1, 別紙 1-3 図	評価断面 7 はシール材を評価しているのか？ 評価対象としている一次蓋密封シール部がどの位置か分かりづらいので拡大図を示して説明してほしい。	済	2023/5/11	評価断面 7 は金属キャスク構造規格で指定されているとおりシール部の溝を評価している。 一次蓋密封シール部の拡大図を追加する。
82	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-V03 Rev.1, P11	一次蓋レジンの圧力上昇とは実際には何によるものなのか？	済	2023/4/11 (口頭)	レジンの膨張によってボイド部の体積が減少することによる圧力上昇と、レジンから発生する水蒸気による圧力上昇である。
83	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-V03 Rev.1, P11	図中の Fw は Fiw の間違いではないか？P12 は Fiw になっている。	済	2023/5/11	ご指摘のとおり Fw は誤記であり、Fiw に修正する。
84	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-V03 Rev.1, P17	側部レジン部に入れているスペーサーは過熱により応力が発生するのか？ 側部レジン部で生じる応力は等方的に作用するのか？ 異方的に作用するのではないか？	済	2023/4/11 (口頭)	スペーサーもレジンで出来ており、側部レジン以上の応力は発生しない。 スペーサーも含めてレジンで出来ており、等方的な荷重として作用する。これは側部レジン部を模擬した社内の要素試験で確認している。
85	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-V03 Rev.1, P17	側部レジン部の要素試験について補足資料等に盛り込むことは可能か？		2024/2/8	開示できない内容もあるが、可能な範囲で参考資料として説明する。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
86	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-V03 Rev.1, P19 GK04-SC-A01 Rev.1, 別紙 2-5	トラニオン接続部の評価としてねじ山のせん断応力を評価しているのは良いと思うが、ねじ山の支圧応力の評価が必要ではないか？	済	2023/5/11	トラニオン接続部の支圧応力(接触面圧)の評価を追加する。
87	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-V03 Rev.1, P20	サポートプレートの評価基準が2.0Syとなっているがこれは正しいか？	済	2023/4/28	2.0Sy は支圧応力の評価基準であり、記載ミスである。圧縮応力の評価基準として正しくは $f_c$ となる。値は正しいので記号のみ修正する。 (津波、竜巻も同様に見直した。)
88	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-V03 Rev.1, P9, P20, P21 GK04-SC-A01 Rev.1, 別紙 1-21	地震の補足説明資料の中で別紙 1-20 に記載している設計降伏応力 $S_y=266\text{MPa}$ を評価基準として入れても良いのではないか？ 設計方針として「臨界防止上有意な変形が生じないこと」となっているので、設計降伏応力 $S_y$ は注記ではなく、評価基準として扱うべきではないか？	済	2023/5/11	審査ガイドに従うこととし、そのため設計方針は変更せず、評価において弾性範囲内に収まることを確認する。 $S_y$ を評価基準として扱う。 P9はそのまま、評価結果に評価基準として $S_y$ を加えた。 補足説明資料も修正した。 (津波、竜巻も同様に見直した。)
89	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-V03 Rev.1, P9,P20, P21 GK04-SC-A01 Rev.1, 別紙 1-21	#88 のコメントに関連して、「臨界防止上有意な変形が生じないこと」とは具体的にどのような状態を指すのか？ 弾性範囲内ということならば、設計方針を書き換えるか、設計方針は変えずに説明を修正する必要がある。	済	2023/5/11	HZ の思想として、「臨界防止上有意な変形が生じないこと」は、発生する応力を弾性範囲内とするということである。前コメント回答のとおり設計方針は変更せずに、評価基準の説明を修正した。 (津波、竜巻も同様に見直した。)
90	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-V03 Rev.1, P21	評価結果が一部申請書と異なる箇所があるので、確認すること。必要なら申請書を修正して補正申請すること。	済	2023/5/11	審査会合資料 GK04-SC-W03 Rev.0 に記載事項の補正箇所の説明を追加する。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
91	2023/4/11	第4条 地震	GK04-SC-V03 Rev.1, P22	一次蓋の横ずれ評価で評価基準が下がったのは、ボルトの内力係数を計算したからか？	済	2023/4/11 (口頭)	別紙 1-35 に計算式を記載しているとおり、ボルトの内力係数を考慮することで基準値が下がっている。
92	2023/4/11	第5条 津波	GK04-SC-V03 Rev.1, P230	解析でトラニオンを境界条件としているがこれでよいのか？	済	2023/4/11 (口頭)	津波を受けた時、キャスクは架台に乗っており、上下トラニオンで固定されるのでこれを境界条件にしている。
93	2023/4/11	第5条 津波	GK04-SC-V03 Rev.1, P30	津波を受けた時、キャスクは上下トラニオンで固定されているが、この状態で内部に加速度が加わるのか？	済	2023/4/11 (口頭)	キャスクはトラニオンで固定されているが、固定が解かれてキャスクが流れた場合には加速度が加わることとなるので、評価を行っている。
94	2023/4/11	第5条 津波	GK04-SC-V03 Rev.1, P32	外筒の評価モデルはこれでよいのか？ 下部レジンカバーとの溶接部の継手効率を考慮する必要があるのではないか？	済	2023/5/11	外筒の評価モデルは別紙 1-5 図に示しているとおり、先行例と同一であり問題ないと考えている。 ただし、下部レジンカバー側が変形する可能性を考慮して、下部レジンカバー側を片側ピン支持とした片側ピン他固定梁として評価の見直しを行った。
95	2023/4/11	第5条 津波	GK04-SC-V03 Rev.1, P33	積載質量②のコンパートメントは何体分か？	済	2023/5/11	積載質量②のコンパートメントは 24 体分である。 体数の記載を追加する。→69 体の評価に変更する。
96	2023/4/11	第5条 津波	GK04-SC-V03 Rev.1, P33	評価対象のコンパートメント 24 体には均一に荷重が作用しているのか？	済	2023/4/11 (口頭)	外周のコンパートメント 24 体はフランジプレートで固定されており、一体とみなせるため、荷重は均一に作用する。
97	2023/4/11	第5条 津波	GK04-SC-V03 Rev.1, P33	中央部のコンパートメント 45 体の荷重は評価対象のコンパートメント 24 体に加わらないのか？ 摩擦を考慮したら多少なりとも荷重が作用するのではないか？保守的というならば 69 体すべてのコンパートメントを積載質量にすべきではないか？	済	2023/5/11	外周のコンパートメント 24 体はフランジプレートで連結されているが、中央部はフリーの状態であるのでその荷重は下部プレートに直接作用する。 中央のコンパートメント 45 体を考慮した場合の評価については検討する。 ・コンパートメント 69 体分の荷重をコンパートメント 69 で受ける評価に修正した。現在示している（外

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							周のコンパートメント 24 体の) 評価は、より保守的な条件での評価として実施しているため、必要な場合は、補足で説明する。
98	2023/4/11	第 6 条 竜巻	GK04-SC-V03 Rev.1, P49	貫通評価の対象がアンバランスに感じられる。 評価対象を密封境界部とするなら外筒ではなく胴とすべきだし、最も外側にある部材ならば一次蓋と底板はそれぞれレジンカバーとすべき。考え方を統一したほうが良いのではないか？	済	2023/5/11	評価方法を統一するよう見直し、評価対象を最外部（二次蓋と底部レジンカバー）とする。
99	2023/4/11	第 4 条 地震	GK04-SC-A01 Rev.1, 別紙 1-1	鉛直方向加速度の桁数が多いがよいのか？ 他の資料と違っているならば整合性を取ることに。	済	2023/5/11	鉛直方向は重力加速度を加味しており、この物理定数として 9.80665m/s <sup>2</sup> をそのまま使用している。 別紙 1-1 の記載を修正した。
100	2023/6/19	—	GK04-SC-V04 Rev.0	誤りの説明について、他に入力値の誤りがないかの説明を記載すること。	済	2023/6/30 2023/7/19	他の誤りがないか確認するため、資料に、バスケットの強度計算書の再チェックを実施、他に誤りがないことを確認した旨を記載した。また、同様の誤りをおこさないよう、社内で水平展開を行うこととした旨も記載した。
101	2023/6/19	—	GK04-SC-V04 Rev.0	誤りの説明について、今回どこでそれを気付いたのか追記すること。	済	2023/6/30	資料の確認体制の手順の記載を見直し（番号をふる）を行い、誤りに気付いた箇所をわかるように追記した。
102	2023/6/19	—	GK04-SC-V04 Rev.0	誤りの説明について、前回説明とのつながりがわかるよう、説明を見直すこと。	済	2023/6/30	事例概要の説明内容を見直した。
103	2023/6/19	—	GK04-SC-V04 Rev.0	設計方針の変更の説明について、各説明内容がどのような理由で変更したか、わかり易くなるよう表現を工夫すること。	済	2023/6/30	評価方針と個別の説明の対応がわかるよう、評価方針に番号をふり、各項目でどの理由が当てはまるか見直しの理由を追加した。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
104	2023/6/19	概要	GK04-SC-V04 Rev.0	バスケット材料 SG295 材の型式証明審査での取り扱いについて、Hitz の方針を説明すること。	済	2023/6/30 2023/7/19 2023/8/24 (審査会合)	SG295 材の審査の方針の説明として、SG295 の適合性説明については型式証明で説明する旨、記載した。詳細については GK04-SC-V05 Rev.0、設置許可基準規則への適合性について（バスケット材料について）に示した。
105	2023/6/19	概要	GK04-SC-V04 Rev.0	SG295 材の ASME の考慮について、「フランジ等のひずみが大きく影響するもの」の考え方の説明を追加すること。	済	2023/6/30	バスケット材はフランジ部でないことを説明したが、そもそも対象となるのがオーステナイト系ステンレス鋼であり、バスケット材に用いる炭素鋼は対象ではないため、考慮が不要である旨追記した。
106	2023/6/19	概要	GK04-SC-V04 Rev.0	クランプの評価について、解析での考慮について説明すること。	済	2023/6/30 2023/7/19 2023/8/24 (審査会合) 2023/9/29	資料に、解析での考慮（本審査に関わる強度評価では考慮しない）について追記した。表現を「クランプを評価対象としない」と変更した。
107	2023/6/19	概要	GK04-SC-V04 Rev.0	クランプについて、その機能、荷重の掛かり方を説明すること。（なお、輸送は型式証明審査の範囲外なので、記載を工夫すること。）	済	2023/6/30	資料のクランプの説明を見直した。
108	2023/6/19	長期健全性	GK04-SC-V04 Rev.0	燃料被覆管の周方向応力を記載すること。	済	2023/6/30	資料に、燃料被覆管の周方向応力を記載した。
109	2023/6/19	長期健全性	GK04-SC-V04 Rev.0	除熱の保守性について、定量的に示すこと。	済	2023/6/30 2023/7/19 2023/8/24 (審査会合)	除熱の保守性の、定量的な評価を追記した。追加のコメントとして、116 にコメント及び回答を記載した。
110	2023/6/19	遮蔽	GK04-SC-V04 Rev.0	遮蔽における上部格子枠のモデル化に関して、説明のために図を付けているが、明確に説明と対応する図を示すべき	済	2023/6/30	図を除き、詳細な説明については補足説明資料を参照するように資料を修正した。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
				であり、中途半端になるようであれば補足説明資料を参照する方が良い。			
111	2023/6/19	遮蔽	GK04-SC-V04 Rev.0	遮蔽における上部格子枠のモデル化に関して、説明中に用いられている"物質"、"部材"、"(均質化)材質"はそれぞれ意味が異なるのか。	済	2023/6/19 (口頭)	"部材"は具体的な形状を持った物であり、対して"物質"は形状には着目しないもの、という意図で記載している。"均質化材質"は均質化した領域に設定する原子個数密度のことである。
112	2023/6/19	遮蔽	GK04-SC-V04 Rev.0	遮蔽における上部格子枠のモデル化に関して、線量当量率分布の図に、遮蔽機能評価に適用しているモデルの結果が申請書記載値に使用されているのか。表 3-4 記載値等の対応が分かりにくい。	済	2023/6/19 (口頭)	申請書記載値は側部中央の値であるが、遮蔽機能評価は頭部モデルと底部モデルを用いて評価しており、当該評価位置は、頭部モデルによる結果と底部モデルによる結果を比較し、より高い底部モデルによる値を記載している。そのため、表 3-4 とは対応しない。  構造材放射化ガンマ線が大きい表 3-4 評価位置④a の値については、本図に対応する箇所はあるものの、表 3-4 記載値は合計線量率が最大となる位置の値であり、本図のピークとは一致しない。
					済	2023/6/30	補足説明資料 16-3 別紙 8-5 図に、表 3-4 記載値との対応に関する追記をした。
113		遮蔽	GK04-SC-V04 Rev.0	遮蔽における上部格子枠のモデル化に関して、上部格子枠の部分は、補足説明資料 16-3 別紙 2-4 図に示されている考慮はしているのか。	済	2023/6/19 (口頭)	していない。上部格子枠は外周に均一な厚さの遮蔽体となるため、別紙 2-4 図のような線量当量率の大きな高低は生じない。
114	2023/6/19	遮蔽	GK04-SC-V04 Rev.0	中性子が遮蔽されやすい構造の説明において、説明のために厚さの具体的数値などは必要か。不要であるならば削除することを検討すること。	済	2023/6/19 (口頭)	不要のため、消すように修正する。
					済	2023/6/30	概要説明資料を修正した。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
115	2023/6/30	構造	GK04-SC-V04 Rev.1 P14	「クランプ構造を考慮しない」という説明に対し、クランプ構造が考慮されていないわけではないので、説明を適切に見直すこと。	済	2023/7/19	「クランプ構造を考慮しない」という表現を「クランプ構造の有無にかかわらずバスケットは本体胴で保持されるため、有意な応力が生じないことからクランプは評価対象としていない。」という説明に見直した。
116	2023/6/30	長期 健全性	GK04-SC-V04 Rev.1 P20	PF を考慮しない「最大崩壊熱量」という表現は、PF は考慮すべきことと考えるので表現を見直したほうが良い。具体的に「最大崩壊熱量」に対して、「設計崩壊熱量」はどのような保守性を見込んでいるのか説明すること。	済	2023/7/19	「最大崩壊熱量」に対して「設計崩壊熱量」は PF を考慮して 17%以上の保守性が見込まれると説明していたが、「設計発熱量」には PF の考慮の他に収納位置ごとに最も崩壊熱量が高くなる条件も加味した保守性が見込まれるため、表現を改めた。 また、定量的に設計発熱量には 26%以上の保守性が見込まれることを記載した。
117	2023/6/30	構造	GK04-SC-V04 Rev.1 P36	外筒は梁としてモデル化して曲げの評価をしているが、円筒断面の梁では膜応力になるのではないか？	済	2023/7/19	外筒の評価方法は先行キャスクと同様に梁モデルを適用しており、外筒中央部及び端部に発生する曲げ応力及びせん断応力を、中間胴の各応力に対する許容基準値で評価を行っている。 膜応力ということであれば外筒と胴フランジ部の接続部の一次一般膜応力強さを評価することとなると考えるが、現在の評価方法が先行キャスクに倣った方法であることから、外筒はこのままの評価としたい。
118	2023/6/30	構造	GK04-SC-V04 Rev.1 P36	コンパートメントの評価基準は $S_y$ と $f_c$ のどちらが正なのか？	済	2023/7/19	No.120 で説明する。
119	2023/6/30	構造	GK04-SC-V04 Rev.1 P37	C1020P の ASME 相当材を C10200 としているが、これは ASTM の書き方ではないか？ ASME なら頭に別の文字	済	2023/7/19	ASME での材料規格としては SB-152 となり、その中で C1020P の ASME 相当材は UNS No. C10200

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
				が付くと思うので ASME での記載を確認すること。 なお、引用する ASME は Part B でも Part D でも構わない。			となる。補足説明資料の記載を修正する。 ASME の標記も先行(Hitz-P24)に合わせて「ASME Boiler & Pressure Vessel Code」とする。
120	2023/6/30	構造	GK04-SC-V04 Rev.1 P39	コンパートメントの評価基準値が Su、Sy とあるがどれが正なのか？金属キャスク構造規格としては Su が評価基準値となるはずだが、そうすると Sy は参考基準といった扱いにすべきではないか。 (No.118 と同様の質問)	済	2023/7/19	コンパートメントの評価基準値は、金属キャスク構造規格に定めるバスケットの供用状態 D における許容応力 Su となる。 「臨界防止上有意な変形が生じないこと」に対して、発生応力が設計降伏点 Sy 以下であれば塑性変形しないことが確認できるが、Sy を超える場合には、コンパートメントの変形量を考慮した臨界解析により臨界防止上、有意な変形が生じないことを確認する必要がある。 設計基準値としては、Su とし、評価の手順として、発生応力が Sy 以下かどうかを確認し、Sy を超える場合には臨界解析で有意な変形が生じていないことを確認することになることを説明する。
121	2023/6/30	構造	GK04-SC-V04 Rev.1 P39	サポートプレートの評価では部材の形状を考慮した補正で Sy を基準としたと記載されていることから、「Sy 以下であることを確認する必要ない」という表現を適切に見直すこと。	済	2023/7/19	サポートプレートの場合は圧縮応力の評価であるため、設計基準値は fc であるが、No.120 の回答どおり臨界防止上有意な変形が生じないことの確認は同様である。そのため、Hitz-P24 型と同様、圧縮応力でもコンパートメントと同様の手順で、Sy 以下かどうかを確認することとする。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
122	2023/6/30	構造	GK04-SC-V04 Rev.1 P40	表現の変更例として「津波波圧と漂流物衝突荷重をそれぞれ作用させる」と記載されているが、これは補足説明資料に記載されている実際の文言をそのまま使用して説明すること。	済	2023/7/19	「等分布荷重である津波波圧 $P_z$ 及び集中荷重である漂流物衝突荷重 $P_c$ がそれぞれ作用する。」(補足説明資料 5-1 別紙 1-1) としていた文言を「等分布荷重である津波波圧 $P_z$ 及び集中荷重である漂流物衝突荷重 $P_c$ が同時に作用する。」(同上) と修正する。
123	2023/6/30	構造	GK04-SC-V04 Rev.1 P40	津波波圧と漂流物衝突荷重を別々の荷重として作用させるのは hitz-P24 と同じか？	済	2023/6/30 (口頭)	P24 は津波波圧と漂流物衝突荷重を合成した津波荷重を与えることとし、そのうえで津波荷重を包絡した設計荷重を与えている。
124	2023/6/30	構造	GK04-SC-V04 Rev.1 P40	密封境界部の評価で、P24 ではフランジ部に津波荷重を与えているが、B69 では漂流物衝突荷重を胴中央部に作用させているので、この妥当性を説明すること。		2023/7/19 2024/01/18 2024/2/8	荷重点の妥当性について、資料 GK04-SC-X02 Rev.1 に示す。 津波漂流物及び竜巻飛来物の衝突箇所について、Hitz-B69 型ではフランジ部には貯蔵用緩衝体が装着されていること、HitzP24 型は縦置きでありキャスク下部のトラニオンで支持されている片持ち梁のモデルであるが、Hitz-B69 型は横置きであり、キャスク上部及び下部をトラニオンで支持する両端支持梁のモデルとなるため、モデルが異なる。そのため、荷重点をキャスクフランジ部でなく、キャスク胴中央部とした。 密封境界部(シール部)への影響という観点では、フランジ部近傍が荷重点となる可能性があることから、津波及び竜巻荷重を包絡する設計荷重をフランジ部に作用させた解析にて、その影響を確認した。一次蓋及び胴フランジ部の密封シール部においては、

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							現在設定している外筒中央の荷重点の方が、発生応力が高くなり、また、一次蓋ボルトについても、荷重点の違いに対し、おおよそ同等の発生応力となる ことが確認できることから、補足説明資料で示した荷重点での評価の方が厳しく、荷重点の設定は妥当である と考える。
124	2023/6/30	構造	GK04-SC-V04 Rev.1 P29	(トラニオン接続部の数値が変更になることの説明を次回ヒアリングで行うとのことだが) 他に誤りがないか確認することの回答がまだできていないと理解している。トラニオンを含め、整理して説明すること	済	2023/7/19	応力評価式で確認している計算書(バスケット、トラニオン、外筒、伝熱フィン、一次蓋の横ずれ)の再チェックを実施し、他に誤りがないことを確認した。同種の誤りをおこさないよう、社内で水平展開を行うこととした。
125	2023/7/19	構造	GK04-SC-V04 Rev.2 P17	各評価基準の説明の後に P37 の伝熱フィンの許容応力の説明につながるはずなので、そのつながりが分かるように記載すること。 また、補正申請に関わる変更点を追加すること。	済	2023/8/24 (審査会合)	記載を追加した。別途補足説明資料 1-1 としてまとめることとした。
126	2023/7/19	除熱	GK04-SC-V04 Rev.2 P20	26%の保守性の説明については、補足説明資料に記載すること。	済	2023/7/19 2024/01/18	補足説明資料 16-4 に説明を追加した。
127	2023/7/19	構造	GK04-SC-V04 Rev.2 P22	温度履歴の設定について、なぜこんなに細かく分割しているのか? そうしないと厳しい評価結果になるのか?	済	2023/7/19 (口頭)	現損が進む温度として保守性を有するという考え方を基としている。
128	2023/7/19	構造	GK04-SC-V04 Rev.2 P30	社内で水平展開を行うこととしているが、例えばチェックシートで確認する、作業要領に明文化する等、簡潔でもいいので具体的に記載すること。	済	2023/8/24 (審査会合)	同様の誤りが発生しないよう、原因と是正処置等を報告書にまとめ、水平展開することを記載した。
129	2023/7/19	構造	GK04-SC-V04 Rev.2 P43	津波荷重の設定について Hitz-P24 との違いを説明すること。	済	2023/8/24 (審査会合)	Hitz-P24 では津波波圧と漂流物衝突荷重を合成した津波荷重を設定し、そのうえで津波荷重を包絡する設計荷重を用いて評価している。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
130	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P5	SG295 の化学成分において、Si と Mn の下限値が規定されていない理由を補足説明資料に記載すること。	済	2023/7/19 (口頭) 2023/8/24 (審査会合)	SGV 材は、脱酸材として Si の下限値が規定されており、低温脆性を考慮して Mn の下限値が設定されていると考えられる。SG295 は、Al キルド鋼であるため Si の下限値を規定する必要がなく、6mm 以下の薄板規格であり脆性破壊が生じにくいいため、低温脆性を考慮した Mn の下限値の規定は必要ないものと考えられる。 補足説明資料に本説明を追加する。
131	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P5	機械的性質で SG295 は SGV410 に対し曲げ性に劣るという説明だが、もう少し詳しく説明すること。また、SG295 が SGV410 の機械的性質が概ね同等といえる根拠を説明すること。	済	2023/7/19 (口頭) 2023/8/24 (審査会合)	JIS 規格では、SG295 は厚さの 1.5 倍、SGV410 は厚さの 0.5 倍と曲げ性が規定されている。 これは、例えば厚さ 6mm では、曲げ加工時の内半径が SG295 で 9mm、SGV410 で 3mm となり内半径が小さいほど曲げ性に優れた材料と考えられる。 SGV410 等に比べて SG295 は降伏点が高く、その分、曲げ性を保守的に規定していると考えられる。 根拠となる文献を確認し、審査会合資料及び補足説明資料に説明を追加する。
132	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P7	バスケットを軽量化する理由にクレーン容量の制限があるが、例えば事業者でクレーン容量を大きいものに交換できないのか。	済	2023/7/19 (口頭)	原子炉建屋のクレーン容量は、多くの施設で 125ton 程度であり、容量増加には建屋支持部の補強等が必要となるため、影響が大きく難しいと考える。
133	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P7	今回審査対象となる炭素鋼に対し、ステンレス鋼を引き合いに出すのはなぜか。 また、炭素鋼と熱伝導率等の物性値に違いがあるのか。	済	2023/7/19 (口頭)	バスケット材料の課題において、炭素鋼を選択した理由としてステンレス鋼と比較している。 炭素量 0.2% 程度の炭素鋼の熱伝導率 51.6W/(m・K) に対し、ステンレス鋼の熱伝導率は 16.0W/(m・K) であり 2 倍程度の差がある。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							密度は、炭素鋼が 7860kg/m <sup>3</sup> 程度でステンレス鋼は 7920kg/m <sup>3</sup> 程度であり大きく変わらない。
134	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P7	バスケット材料への要求事項において、厚さ 16mm 未満は破壊靱性要求の考慮が不要となっているが、この厚さの根拠を説明すること。	済	2023/7/19 (口頭)	根拠として、"JSME S FA1-2007 金属キャスク構造規格"では、バスケットに使用する厚さ 16mm 未満の鋼板に対して破壊靱性要求が除外されていることに基づいている。  これは、"JSME S NC1-2008 発電用原子力設備規格設計・建設規格"のクラス 1 容器の解説されている、「一般に板厚が小さいほど脆性破壊が生じにくくなる」に由来すると考えられ、ASME も同じ考え方であることから、厚さ 16mm 未満の鋼板の破壊靱性要求の考慮は不要とした。
135	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P9	適用規格の JIS G 3116:2013 は古くないか。 JIS G 3116 の最新版は 2020 年版ではないか。	済	2023/7/19 (口頭)	SG295 の材料試験は 2017~2018 年に実施しており、当時は JIS G 3116 : 2013 が最新版だった。 確認した結果、JIS G 3116 : 2020 を適用しても特に問題はなく、適用規格を JIS G 3116 : 2020 に変更する。
136	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P9	材料試験の項目において”マクロ及びマイクロ組織”及び”実用試験”が未実施となっている理由を説明すること。	済	2023/7/19 (口頭)	SG295 は JIS 規格に則った普通鋼であり、特殊な添加元素による強化機構がなく“マクロ及びマイクロ組織”及び“実用試験”で特に確認しなければならない要素がないため実施していない。
137	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P10	材料試験の項目の機械的性質における靱性と硬さの試験が未実施となっている根拠を説明すること。	済	2023/7/19 (口頭)	破壊靱性試験では平面ひずみ破壊靱性値を求めることが重要であり、平面ひずみ破壊靱性値を求める際は、厚板でき裂先端近傍において板厚方向の変形が十分に拘束された状態であることが求められる。こ

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							<p>の十分な変形拘束を得るためには、試験片の厚さが数十 mm 以上必要となる場合が多く、板厚の薄い試験片を用いると板厚方向の変形拘束が不十分なことから、一般に高い破壊靱性値を示して有効な靱性評価にならず、状況によっては脆性破壊を生じない場合がある。したがって、SG295 は 6mm 以下の薄い鋼板であり、破壊靱性試験により平面ひずみ靱性値を取得することが困難と考えられる。</p> <p>ただし、SG295 は炭素添加量が 0.2%以下であり、かつ、6mm 以下の薄い鋼板であることから、SGV 材と同等以上の靱性を有するものと考えられる。</p> <p>硬さについては、SG295 は炭素量 0.2%以下の普通鋼であり、厚さ 6mm 以下の薄い鋼板であることに加え、コンパートメントに硬さが求められる使用条件がないことから実施していない。</p>
138	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P10	材料試験の項目の溶接性において”炭素量が 0.3%以下の炭素鋼であるため不要”とあるが、この根拠を説明すること。	済	2023/7/19 2023/8/24 (審査会合)	文献調査の結果、炭素量 0.22%以下の軟鋼の溶接は一般的に容易であるといわれていることが確認できた。したがって、記載を 0.3%→0.22%に改めるとともに補足説明資料にも追加する。
139	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P11, P12	設計用強度について、JIS 規格と材料試験の関連性を説明すること。	済	2023/7/19 (口頭)	設計用強度は、JSME 新規材料採用ガイドラインに基づいて規格値を設定しているが、JSME 新規材料採用ガイドラインの中に“他の規格を調査し相当材がある場合は、それらの規格との整合性を図る”との記載があることから、JIS G 3116 及び“JIS B 8267 圧力容器の設計”との整合性を確認し設計用強度を

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							設定している。なお、起点となる常温引張強度に JIS G 3116 の規格値を採用したことから、高温強度は材料試験結果より保守的となっている。
140	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P11, P12	審査会合資料に設計用強度の根拠となる試験結果の総括表を掲載すること。	済	2023/8/24 (審査会合)	拝承。 試験結果の総括表を審査会合資料に追加する。
141	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P10, P15	炭素量に基づく説明が見受けられるが、炭素量が説明のポイントになるのであれば詳細を説明すること。	済	2023/7/19 (口頭)	炭素鋼は、添加される炭素量によって材料特性が大きく変化することから説明のポイントとなる。 文献調査の結果、炭素量が増えると炭素鋼の融点は低下し、炭素量 0.2%以下の炭素鋼の融点は 1490℃ (絶対温度 1763K) であり、クリープ温度域は 314℃ (絶対温度 587K) 以上と考えられる。 また、炭素量が少ないほど、機械的性質の絞りが高くなり、炭素量 0.2%以下は延性に優れるものと考えられる。
142	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P10	SG295 は溶接が適用されるのか。	済	2023/7/19 (口頭)	SG295 を用いるバスケットのコンパートメントは、鋼板をコの字型に曲げ加工したあと、レーザー溶接で接合して角パイプにする。この構造は SGV410 を使った先行例 (Hitz-B52 型) と同じである。
143	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P10	溶接部の非破壊検査はどのように考えているか。また、溶接部の強度はどのように評価しているのか。	済	2023/7/19 (口頭)	溶接部の非破壊検査は、PT を行い必要に応じて UT を行うように考えている。溶接部の強度評価では、"JSME S FA1-2007 金属キャスク構造規格"のバスケットに基づいて適切な継手効率を考慮する。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
144	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P16	中性子照射量において、 $10^{16}\text{n/cm}^2$ まで顕著な脆化は認められないと説明しているが、不明瞭であるため表現を見直すこと。	済	2023/7/19 (口頭)	この値は原子力学会標準にも記載されているものであり、確認して適切な表現に改める。
						2023/8/24 (審査会合)	$1 \times 10^{16}\text{n/cm}^2$ 以下であれば顕著な脆化がないという表現に見直す。
145	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P4	JIS 規格の SGV 材に 6mm 以下の規格がないため鋼板を薄くできないとのことだが、具体的に説明すること。	済	2023/7/19 (口頭)	Hitz-B69 型のバスケットのコンパートメントは軽量化のため厚さを 4.5mm としている。SGV 材はスラブを圧延して製造することから 6mm 以下の厚さを製作することが難しく、板厚の精度も低い。 6mm 以下の SGV 材は、JIS 規格に適合せず、実際に製造することも難しいと考えられる。
146	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P5	寸法公差が大きいことと本体胴とバスケットの隙間を小さくできないことの関連性を説明すること。	済	2023/7/19 (口頭)	バスケットの外径が同一であれば、金属キャスクの質量は本体胴とバスケットの隙間が小さくなるほど軽くなる。この隙間の設計要因のひとつが、板厚の寸法公差であり、寸法公差が小さいほど本体胴とバスケットの隙間が小さく設計できる。
147	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P9	SGV 材と SG295 は製造方法が異なるのか。	済	2023/7/19 (口頭)	同じ熱間圧延だが、SGV 材はスラブを製作してから熱間圧延し、SG295 は連続鋳造からスケールブレイカーを経て粗圧延→仕上圧延で製造される。
148	2023/7/19	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.0 P16	腐食による影響について“残留する濃度を管理することで機能に影響を及ぼさない残留量とすることが可能”との記載を具体的に説明すること。	済	2023/7/19 (口頭)	真空乾燥において、吸引する空気中の湿度を計測することにより、キャスク内部の残留水分を推定することが可能であり、これにより残留水分量を管理している。
149	2023/9/29	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.1 P14	コイル材から平板にする場合、また、角パイプの角曲げの場合の冷間加工の加工ひずみを定量的に評価すること。 その上で、ひずみ時効の影響がないことを定量的に説明す	済	2023/10/20	これまで SG295 は、含有炭素量が 0.2%以下と低く、薄い鋼板であることから、ひずみ時効は特に問題にならないと評価していたが、さらに調査を進めた結

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
				ること。			果、冷間加工に伴うひずみ時効による脆化における脆性破壊の可能性を、現状の規定では完全には否定できないことが判明した。 したがって、SG295の冷間加工にあたっては、応力除去焼鈍で延性及び靱性を回復させることにより、ひずみ時効を抑制することとする。 詳しくは、審査会合資料及び補足説明資料の記載を改め、説明する。(GK04-SC-V06 Rev.2 P13、GK04-SC-Z01 Rev.7 P別紙 3-15、P別紙 3-63)
150	2023/9/29	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.1 P14, P16	ひずみ時効を説明するための参考文献としている P16 の [4]低炭素鋼の延性一ぜい遷移温度に及ぼす引張予加工の影響において、冷間加工を行えばひずみ時効の可能性はありと記載があり、説明には不十分と考えるので、別途適切な文献にて説明すること。	済	2023/10/20	拝承。 引用した文献が適切でないため、削除する。 本件については、ひずみ時効の考え方を改めると共に引用する文献も再確認する。(GK04-SC-Z03 Rev.0 別紙 2)
151	2023/9/29	バスケット材料	GK04-SC-Z01 Rev.6 P別紙 3-10	溶接性の評価「炭素量が 0.22%以下の炭素鋼であるため不要」に対して引用されている文献には定性的な説明しかなく、試験で検証され定量的に説明されている文献を用いて説明すること。	済	2023/10/20	拝承。 引用した文献の根拠となる試験で検証された文献を補足説明資料に追加する。(GK04-SC-Z03 Rev.0 P.9, P.20)
152	2023/9/29	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.1 P14, P16	SGV 材でオーステナイト結晶粒度を 5 以上または酸可溶性アルミニウムの分析値を 0.015%以上としているが、SG295にも適用できるのか説明すること。	済	2023/10/20 (口頭)	JIS G 3118 の SGV410 と SG295 は同等の化学成分であり、Al は結晶粒の粗大化を抑制する効果があることから、SGV410 と同等の酸可溶性アルミニウムを含有していれば、SG295 のオーステナイト結晶粒径は SGV410 と同等と考えられる。
153	2023/9/29	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.1 P14, P16	オーステナイト結晶粒度 5 以上の要求が、長期健全性とのように関連するのか説明すること。	済	2023/9/29 (口頭)	オーステナイト結晶粒度は、長期健全性に関連するものではなく、材料の靱性や強度に影響するもので

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							ある。
154	2023/9/29	バスケット材料	GK04-SC-Z01 Rev.6 P 別紙 3-39	実機板厚よりも厚い板厚 6mm での試験結果を用いることの妥当性を説明すること。	済	2023/9/29 (口頭)	炭素鋼は、板厚が厚くなると製造時の材料の冷却速度が遅くなり結晶粒が成長するため、引張強度や靱性が低下する懸念がある。  したがって、JIS で規定されている最も厚い板厚を材料試験の供試体に適用することにより保守的な評価となる。
155	2023/9/29	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.1 P14	審査会合資料(パワーポイント版)に用いる用語や表現は、一般的にも理解できるようになるべく簡単なものに置き換えること。	済	2023/9/29 (口頭)	拝承  ひずみ時効の説明では、専門用語が多く、わかりにくい ため、簡単な表現に見直すこととする。(GK04-SC-Z03 別紙 2)
156	2023/9/29 2023/10/20 2023/11/22	バスケット構造	GK04-SC-V06 Rev.1 P17	クランプが構造強度に影響を及ぼさないことは理解できたが、説明内容で誤解を招く表現があるため、工夫すること。  (2023/10/20 でも同様のコメントあり)  (2023/11/22)  コメント回答の説明が飛躍している。クランプの機能を説明した上で安全機能に影響するものではないことを記載すること。	済	2023/10/20	拝承。  審査会合資料及び補足説明資料のクランプに係る説明において、誤解を招く表現があるため見直す。  (GK04-SC-V06 Rev.3 P17、GK04-SC-Z01 Rev.7 P 別紙 2-6)
			GK04-SC-V06 Rev.2 P17			2023/11/22	審査会合資料及び補足説明資料のクランプに係る説明内容を見直す。  (GK04-SC-V06 Rev.2 P13、GK04-SC-Z01 Rev.8 P 別紙 2-6)
			GK04-SC-V06 Rev.3 P13			2023/11/22	拝承。  審査会合資料の内容を見直し、クランプが安全機能に影響するものではないことを説明する。
157	2023/10/20	バスケット	GK04-SC-V06	オーステナイト結晶粒度と長期健全性の関係について説	済	2023/10/20	オーステナイト結晶が生じ始める温度は、700℃前後

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
		ト材料	Rev.2 P14	明すること。また、製造管理規定にオーステナイト結晶粒度を規定する理由を説明すること。		(口頭)	であり、供用温度が 300℃以下であれば、供用期間において熱的影響がオーステナイト結晶粒度に影響を及ぼすことはない。したがって、初期粒径における靱性や強度が供用期間中に変化することはない。
158	2023/10/20	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.2 P16	製造管理規定において、応力除去焼鈍の後にレーザー溶接を行う工程となっている理由を説明すること。	済	2023/10/20 (口頭)	JSME 金属キャスク構造規格において、SG295 及びその溶接部の材料区分は、溶接後熱処理を必要とするものに該当しない。応力除去焼鈍は、冷間加工に伴うひずみ時効による脆化を抑制するためのものと考えており、冷間加工後に応力除去焼鈍を行う。レーザー溶接後の熱処理は考えていない。
159	2023/10/20	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.2 P13	現状示されている材料強度は、応力除去焼鈍により変化する可能性があり、実際に供用する材料の強度への影響が懸念されることについて説明すること。	済	2023/11/22	応力除去焼鈍の保持温度は、冷間加工によって導入された残留応力の除去を目的とし、オーステナイト結晶が生じ始める温度以下（700℃前後）で短時間の加熱保持を計画している。追加材料試験により、設計用強度に影響を与えない適切な応力除去焼鈍の条件を確認する予定であることから、応力除去焼鈍が材料の強度や靱性に影響を及ぼすことはない。
160	2023/10/20	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.2 P15	アルミキルド鋼の製造において、アルミニウムを添加する工程を説明すること。	済	2023/11/22	確認した結果、一般的にアルミキルド鋼を製造する熱間圧延では、純酸素転炉でアルミニウムが添加される。
161	2023/10/20	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.2 P16	応力除去焼鈍時における材料の姿勢を説明すること。 また、応力除去焼鈍における製品の変形について説明すること。	済	2023/10/20 (口頭)	応力除去焼鈍時の製品の姿勢は横置きとなる。 短い保持時間の応力除去焼鈍を計画していることから、製品が変形するおそれはない。
162	2023/10/20	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.2 P13	応力除去焼鈍及び応力除去焼鈍によりひずみ時効が抑制できることについて説明すること。	済	2023/10/20 (口頭)	応力除去焼鈍とは、熱処理のひとつであり、加熱炉等で設定した温度に一定時間保持することで材料内の

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							<p>残留応力を除去する目的で施される。</p> <p>冷間で曲げ等の加工を施すと材料内にひずみが生じるため、材料の結晶組織に転位が生じることになる。溶質原子の C (炭素) や N (窒素) は熱を加えることにより拡散 (熱エネルギーにより駆動力が与えられ原子が移動する現象) し、時間の経過 (原子には固有の移動距離があり固溶原子の移動距離は経過時間によって異なる) とともに転位に辿り着き侵入して固着することにより、曲げた状態 (加工硬化した状態) を固定するようになって材料が硬くなるという現象がひずみ時効である。</p> <p>溶質原子である炭素や窒素が転位に侵入しなければ、ひずみ時効が生じることはなく、応力除去焼鈍によりひずみが減少すれば転位も減少するため、C (炭素) や N (窒素) が転位を固着することがなくなることになる。</p> <p>したがって、応力除去焼鈍によりひずみ時効が抑制できると考えられる。</p> <p>(GK04-SC-Z03 Rev.0 補足説明資料 1-2 別紙 2)</p>
163	2023/10/20	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.2 P13	応力除去焼鈍によってひずみ時効が抑制できることについて、根拠となる文献を明確に示すこと。	済	2023/11/22	<p>拝承。</p> <p>GK04-SC-Z03 Rev.0 補足説明資料 1-2 別紙 2-7 に示す。</p>
164	2023/10/20	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.2 P12	SG295 について、申請の範囲及び設計方針を示すこと。	済	2023/11/22	<p>拝承。</p> <p>GK04-SC-V05 Rev.1 に示す。</p>

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
165	2023/10/20	遮蔽	GK04-SC-V06 Rev.2 P21 GK04-SC-01 Rev.4 別紙 9-9	概要説明資料と補足説明資料で説明が異なるように読める。両者は整合した説明となるべきである。 概要説明資料では三次元解析の結果だけで説明しているようであり、補足説明資料では二次元解析の結果との比較に基づいて説明しているようである。	済	2023/11/22	概要説明資料及び補足説明資料を修正し、三次元解析の結果に基づいて問題ないという趣旨の説明とする。(GK04-SC-V06 Rev.3 P.16~P.17、GK04-SC-D01 Rev.5(DRAFT) 別紙 9-8~9)
166	2023/10/20	遮蔽	GK04-SC-D01 Rev.4 P20	表 3-3 に記載されている値はライブラリに依存する中性子の過小評価の可能性のある値であり、それを考慮しても問題無いことを確認しているならば、それが分かるように備考等に記載すること。	済	2023/11/22	表 3-3 の備考に、中性子の線量当量率過小評価についての記載を追記した。 (GK04-SC-D01 Rev.5(DRAFT) P.20)
	申請書にも考え方を記載すること。			2023/11/22 (口頭)		拝承。添付書類一で明記するよう補正する。	
167	2023/10/20	遮蔽	GK04-SC-D01 Rev.4 別紙 9-8	統計誤差を伴うモンテカルロ法による解析結果を比較する場合、統計誤差を考慮する必要がある。解析結果に統計誤差に関する記載を追記し、それを踏まえても成り立つ説明とすること。	済	2023/11/22	解析結果を確認したところ、表面における解析結果は必ずしも説明に十分な統計誤差になっていなかったため、統計誤差がより小さくなるよう解析を延長した結果に修正した。合わせて、表面から 1m の結果も示し、統計誤差を考慮しても説明は成り立つと判断した。(GK04-SC-D01 Rev.5(DRAFT) 別紙 9-8~11)
168	2023/10/20	遮蔽	GK04-SC-D01 Rev.4 別紙 7	別紙 7 で比較している Hitz-B52 型の評価で適用されているライブラリは同じ (DLC-23/CASK ライブラリ) か。	済	2023/10/20 (口頭)	同じである。
169	2023/10/20	遮蔽	GK04-SC-D01 Rev.4 別紙 6	補足説明資料 16-3 別紙 6 で DLC-23/CASK ライブラリと MATXSLIB-J33 の比較を行っているが、DLC-23/CASK ライブラリを選択したのは何故か。	済	2023/10/20 (口頭)	適用実績があるため、また、別紙 5 に示す実際の試験結果との比較も DLC-23/CASK ライブラリを適用した場合であり妥当性を確認しているためである。
170	2023/11/22	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.1 P14~19	バスケット材料の高温強度は、400℃以下の試験結果を元に設定されているが、応力除去焼鈍の施工後もこの高温強	済	2023/11/22 (口頭)	実験により、650℃×2 時間までの熱処理において圧延のままのバスケット材の金属組織に変化がない

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
			GK04-SC-Z03 Rev.0 別紙 2-4	度を担保できることについて説明すること。			ことを確認した。常温の強度や金属組織に変化がないと考えられることから、圧延のまま材と応力除去焼鈍材の高温強度は同等と考えられる。
171	2023/11/22	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.1 P14~19 GK04-SC-Z03 Rev.0 別紙 2-4	冷間加工を施した部位について、圧延のまま材と応力除去焼鈍材の金属組織の変化は異なると考えられるため、冷間加工を施した材料に対する説明を追加すること。	済	2023/11/22 (口頭)	拝承。 冷間加工を施した材料に対する応力除去焼鈍の効果については、別途、型式指定申請前までに実験を実施し、実験結果に基づいた説明を追加する。
172	2023/11/22	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.0 別紙 2-5	受入材と熱処理材のビッカース硬さのグラフについて、試験結果の平均値が示されているが、評価プロセスの透明性を示すため実測値をプロットすること。	済	2023/11/22	拝承。 補足説明資料 1-2 別紙 2-5 ページ 図 別 2-3 のグラフは実測値をプロットしたものに差し替える。
173	2023/11/22	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.0 別紙 2-5	図 別 2-3 のグラフには、ビッカース硬さを引張強度に換算した値が示されており、設計強度は降伏点が設定されていることから、降伏点に対する影響についても説明すること。	済	2023/11/22 (口頭)	拝承。 常温の強度や金属組織に変化がないために高温での強度の変化もないとの記載に加えて、降伏点及び引張強さ等の引張特性に対する指標については、型式指定申請前までに試験を実施し、試験の結果に基づいて説明する。
175	2023/11/22	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.1 GK04-SC-Z03 Rev.0	コンパートメント製作時の溶接条件は決まっているのか。溶接した部位は強度が低下すると考えら有れ、型式指定では溶接部の強度の考え方について説明を求めることとなるため準備すること。	済	2023/11/22 (口頭)	コンパートメント製作時の溶接条件は決まっておらず、溶接施工法試験で決定することとなる。 溶接施工法検査では、溶接部の強度が母材以上であることが合格条件の一つとなっている。 型式指定では、溶接部の強度について、溶接施工法試験の考え方を踏まえて説明する。
176	2023/11/22	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.1 P.4 GK04-SC-Z03	遮蔽機能の安全設計の基本方針に「遮蔽機能を満足する本体胴の厚さを得るためには、バスケット外径の小型化と軽量化が有効」との記載があるが、これは遮蔽機能の安全設	済	2023/11/22	拝承 審査会合資料及び補足説明資料 1-2 の記載を見直すこととする。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
			Rev.0 P.2	計の基本方針として不適切であると考えられる。			
177	2023/11/22	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.1 P.35 GK04-SC-Z03 Rev.0 P.18	SG295 と一般的な炭素鋼の熱伝導率を比較する理由を説明すること。	済	2023/11/22 (口頭)	試験結果により、SG295 は SGV410 等を含む一般的な炭素鋼と同じ分類に含まれることを確認しており、これを説明するため SG295 と一般的な炭素鋼の熱伝導率を比較している。
178	2023/11/22	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.1 P.39 GK04-SC-Z03 Rev.0 P.4	審査会合資料には、今後の方針として「応力除去焼鈍の適切な条件の策定について」が示されているが、補足説明資料では明確な記載がない。 補足説明資料 1-2 に「型式指定申請前」までに実施する内容を明確に記載すること。 また、申請書の別紙 1-1 も同様の記載が必要であり、補正申請において同様に記載すること。	済	2023/11/22	拝承 補足説明資料 1-2 の記載を見直すこととする。 また、補正申請において同様の記載を追加することとする。
179	2023/11/22	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.1 P.4 GK04-SC-Z03 Rev.0 P.2	審査会合資料及び補足説明資料 1-2 の安全設計の基本方針の閉じ込め及び遮蔽機能の記載において「有意な影響を及ぼすことはない」という断定的な表現は不適切であり、方針として適切な表現に見直すこと。	済	2023/11/22	拝承 審査会合資料及び補足説明資料 1-2 の記載を見直すこととする。
180	2023/11/22	バスケット材料	GK04-SC-V05 Rev.1 P.5	収納体数を 52 体から 69 体に増やすこと及び重量制限を増やせないことは規制とは関係のないことであり、この記載の意図が不明である。記載の意図を明確にすること。	済	2023/11/22	拝承 審査会合資料及び補足説明資料 1-2 の記載を見直すこととする。
181	2023/11/22	バスケット材料	GK04-SC-V06 Rev.1 P.15	図 4 のクランプの断面図がバスケットのどの部位に位置するのか表現すること。	済	2023/11/22	拝承。 参考資料の図を流用しクランプの位置関係を示すこととする。
182	2023/11/22	遮蔽	GK04-SC-V06 Rev.3 P.17	”中性子が支配的であるため、合計の線量当量率には大きな影響を及ぼさない” の記載が括弧書きで記載されている	済	2023/12/14	括弧書きとすべき理由はないため、資料を修正した。 (GK04-SC-W06 Rev.0 P.17)

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
				が、説明において重要と考えられる。括弧書とすべき理由があるか。			
183	2023/11/22	遮蔽	GK04-SC-V06 Rev.3 P.17	評価点 1 だけ差が大きいようであるが、理由を説明できるか。	済	2023/11/22 (口頭)	細かな検証はしていないため明確な説明はできない。 評価点 1 は中心軸上であり当該評価点に特異な要素として一次蓋の構造が局所的に他と異なることが挙げられるが、ここでは統計的手法による解析結果がこのようになったということ以上のことは言えない。
				異なる傾向が見える場合には、例えば転記の再確認等を行い、自信を持って結果を説明できるようにすること。		2023/11/22 (口頭)	拝承。
						2023/12/14	解析結果を再確認し、結果の記載に誤りがないことを確認した。
184	2023/11/22	遮蔽	GK04-SC-V06 Rev.3 P.17	表に記載している数値の単位を明記すること。	済	2023/12/14	単位を追記した。 (GK04-SC-W06 Rev.0 P.17)
185	2023/11/22	遮蔽	GK04-SC-D01 Rev.5 別紙 9-2	別紙 9-1 表の※3 の説明がイメージしにくい、具体的にどのようなことか。	済	2023/11/22 (口頭)	具体的には別紙 2-3 図(GK04-SC-D01 Rev.5 別紙 2-9 頁)において、実形状の図における概ね赤線上の部分が、非均質化モデルでは含まれず、均質化モデルでは含まれるということである。
186	2024/01/18 03130	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.1 P.1	HZ-SG295HAR は応力除去焼鈍を施した後のものか、それとも応力除去焼鈍を施す前のものか定義付し、明示すること。		2024/01/18 (口頭)	材料としての HZ-SG295HAR の熱処理は「圧延のまま」であり、ひずみ時効対策として実施する応力除去焼鈍は、HZ-SG295HAR の冷間加工後に施工する加工(熱処理)のひとつと捉えている。 この考え方に基づいて、補足説明資料 1-2 で定義を明示することとし、申請書本文及び別添 1-1 の記載

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
							を補正することとする。
187	2024/01/18	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.1 P.4	<p>設計用強度の基本方針で、「材料試験で取得した常温の降伏点及び引張強さに 99 %信頼区間を考慮したものと JIS G 3116 に規定された SG295 の降伏点及び引張強さを比較し、値の低いものを常温の設計用強度として保守的に設定する。」とあるが、実際に使用するのは HZ-SG295HAR であり、応力除去焼鈍によりここで評価している SG295 より強度が低下する可能性がある。</p> <p>HZ-SG295HAR の設計用強度に対して、応力除去焼鈍を施す前の SG295 の試験結果を用いることの妥当性を説明すること。</p>		2024/01/18 (口頭)	<p>別紙 2 で説明しているとおり、検討している応力除去焼鈍の条件範囲 (650℃以下/2h 以内) までは、母材の硬さが低下しないことを確認している。</p> <p>硬さを SAE J 417 で換算した結果、引張強さは規格値を満足することを確認した。また、硬さが高くなると、降伏点は上昇する傾向にあることから、検討している条件範囲内の応力除去焼鈍であれば、母材の降伏点及び引張強さは規格値を下回ることはないと考えている。</p> <p>この考え方を補足説明資料 1-2 に記載するとともに詳細は別紙 2 を参照するように記載する。</p> <p>なお、予ひずみが付与された状態では加工硬化が生じるが、焼鈍により受入材の強度に戻るものと考えている。</p>
188	2024/01/18	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.1 別紙 4-1	<p>【HZ-SG295HAR の製造管理規定においては、「オーステナイト結晶粒度は 5 以上とする。なお、結晶粒度試験は、酸可溶性アルミニウムの分析値が 0.015 %以上の場合は、省略しても良いこととする。」としている。】に続いて【しかしながら、製造管理規定を定めるにあたっては、酸可溶性アルミニウムが 0.015 %以上であれば、オーステナイト結晶粒度の 5 以上を満足することを確認する必要がある。】と記載されているが、説明がわかりにくいので見直すこと。</p>		2024/01/18 (口頭)	<p>説明がわかりにくいため、「しかしながら、製造管理規定を定めるにあたっては、酸可溶性アルミニウムが 0.015%以上であれば、オーステナイト結晶粒度の 5 以上を満足することを確認する必要がある。」については、「この別紙 4 では、結晶粒度に係る HZ-SG295HAR の製造管理規定の技術的妥当性を確認する目的で、鋼の機械的性質に及ぼす結晶粒度の影響や、酸可溶性アルミニウム量とオーステナイト結晶粒度の関係について説明する。」に訂正することとする。</p>

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
189	2024/01/18	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.1 別紙 4-4	「JIS G 3118 における SGV410 では、酸可溶性アルミニウム分析値が 0.015 % 以上の場合はオーステナイト結晶粒度試験を省略しても良いことが示されているが、これは、図 別 4-4 の結果と同様である。」という記載は、JIS G 3118 にも図別 4-4 と同じ説明が記載されているような印象を受けるため、誤解のないように記載振りを見直すこと。		2024/01/18 (口頭)	拝承、記載振りを見直すこととする。
190	2024/01/18	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.1 別紙 5-1	概要に記載の「コンパートメントに施す焼鈍に関し、ひずみ時効対策としての有効性や母材強度への影響を確認する試験の内容を述べる。」とあるが、前提としてこの試験の目的を具体的に明示すること。 また、実施する試験内容の目的についても説明すること。		2024/01/18 (口頭)	拝承、記載振りを見直すこととする。 試験の目的は、ひずみ時効に対する焼鈍の有効性検証及び設計用強度の設定の妥当性検証の2点である。
191	2024/01/18	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.1 別紙 5-1	・母材に対する応力除去焼鈍の影響を調査して設計用強度の妥当性を確認すること。 ・冷間加工材に対する焼鈍によりひずみ時効を防止できることを確認すること。 以上の目的に対して、試験条件が妥当と判断できる根拠を説明すること。		2024/01/18 (口頭)	拝承、検討して説明を追加する。
192	2024/01/18	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.1 別紙 5-2	「いわゆる人工時効処理を行うと短時間 (30 min 程度) で硬化・脆化が完了するとの報告 <sup>[3]</sup> がある。」の記載については、根拠データに基づいた説明とすること。		2024/01/18 (口頭)	拝承、引用文献を確認して説明内容を検討する。
193	2024/01/18	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.1 別紙 5-2	「鋼板のひずみ時効を検討した過去の報告 <sup>[4],[5]</sup> においても、同じ時効処理条件が適用されており、この条件は妥当と考えられる。」この記載は、橋梁を対象とした常温における時効試験に適用されたものであるため、高温下で供用さ		2024/01/31	引用文献は、橋梁の常温におけるひずみ時効を考慮して高温で加速試験したものである。 ひずみ時効は 100~250℃で短時間で完了するものであり、実際のキャスクの供用では初期の段階でひ

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
				れるバスケット材料の加速時効条件（250℃×1h）の適切性を説明すること。			ずみ時効は完了するものと考えられる。 したがって、250℃×1h の加速時効条件は妥当と考えられる。 ひずみ時効が短時間で完了することを根拠となるデータを用いて説明することとする。
194	2024/01/18	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.1 別紙 5-2～5-3	「ひずみ時効で脆化した鋼は、600℃前後の応力除去焼なまし（焼鈍）である程度靱性は回復する」の記載については、根拠データに基づいた説明とすること。		2024/01/18 (口頭)	拝承。
195	2024/01/18	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.1 別紙 5-3	「また、事前検討における予備実験では、HZ-SG295HAR に対して温度を 650℃以下、時間を 2h 以内の焼鈍を実施した場合、受入材と比較して硬さや金属組織が変化しないことを確認している（別紙 2 参照）」は母材を対象とした説明であり、冷間加工後の材料は対象とならないことから、記載振りを見直すこと。		2024/01/18 (口頭)	別紙 2 で確認しているのは母材強度の変化であり、試験目的と混同しないように記載振りを改めることとする。
196	2024/01/18	バスケット材料	GK04-SC-Z03 Rev.1 別紙 5-4	表 別 5-2 に示す試験片で実施する試験は同じなのか。必要に応じて表で整理して明示すること。		2024/01/18 (口頭)	拝承。
197	2024/1/18	遮蔽	GK04-SC-D01 Rev.6 P.5,8,別紙 6	P.5 では「DLC-23/CASK ライブラリを用いることによる線量当量率の過小評価がある評価位置では、MATXSLIB-J33 ライブラリを用いる」と記載され、P.8 では過小評価の可能性の高い評価点として底部径方向を挙げているが、別紙 6 で示される評価点毎の値を見ると、DLC-23/CASK ライブラリを用いた方が低い評価点が底部径方向以外にもある。過小評価の考え方を説明すること。		2024/1/18 (口頭)	P.5 の「線量当量率の過小評価がある」は、実際の燃料を収納した場合のキャスク表面及び表面から 1m の線量当量率に対して、DLC-23/CASK ライブラリを用いた解析値が下回ってしまうことを意図しており、DLC-23/CASK ライブラリを用いた値が MATXSLIB-J33 ライブラリを用いた値より小さくなることではない。また、P.5 の記載の「評価位置」は、キャスク表面又は表面から 1m の位置を意図しており、個別の評価点のことではない。

#	コメント 日	項目	資料	コメント内容	状態	回答日	回答・方針
						2024/2/8	考え方が分かりやすくなるよう修正した。 (GK04-SC-D01 Rev.7 P.5,8)
198	2024/1/18	遮蔽	GK04-SC-D01 Rev.6 P.5,8,別 紙 6	線量当量率が最大となる位置と値の確認のプロセスにつ いての記載が不足している、及び資料に分散しているため 理解しにくい。一貫して読めるようにすること。		2024/2/8	補足説明資料 P.5 は概要的な記載として、P.8 に一貫 して読めるよう記載した。また対応して別紙 6 の記 載を修正した。 (GK04-SC-D01 Rev.7 P.8,別紙 6)